



木村 勝

1934年宇都宮生まれ。1960年パッケージングディレクションを設立、現在に至る。1968年からパッケージの新しいあり方を提案する個展を開催。明るくリズムカルなデザインで、独自の世界を作り出す。活動は国内にとどまらず、N.Y.ブルームングデール百貨店のショッピングバッグのデザインなども手がける。パッケージデザイン以外にもCIデザイン、商品開発などの分野で幅広く活動している。東京アートディレクターズクラブ、東京タイプディレクターズクラブ、日本グラフィックデザイナー協会各会員。ADC賞、ADC会員賞、JPDA特賞、JPDA Person of the Year賞、JPDA金賞など、受賞多数。著書に『木村勝のパッケージディレクション』、『アール・デコのパッケージ』、『BOX-ER木村勝のパッケージング』、『ALL OF SSAWS』、A&D SCAN『木村勝の仕事と周辺』など。

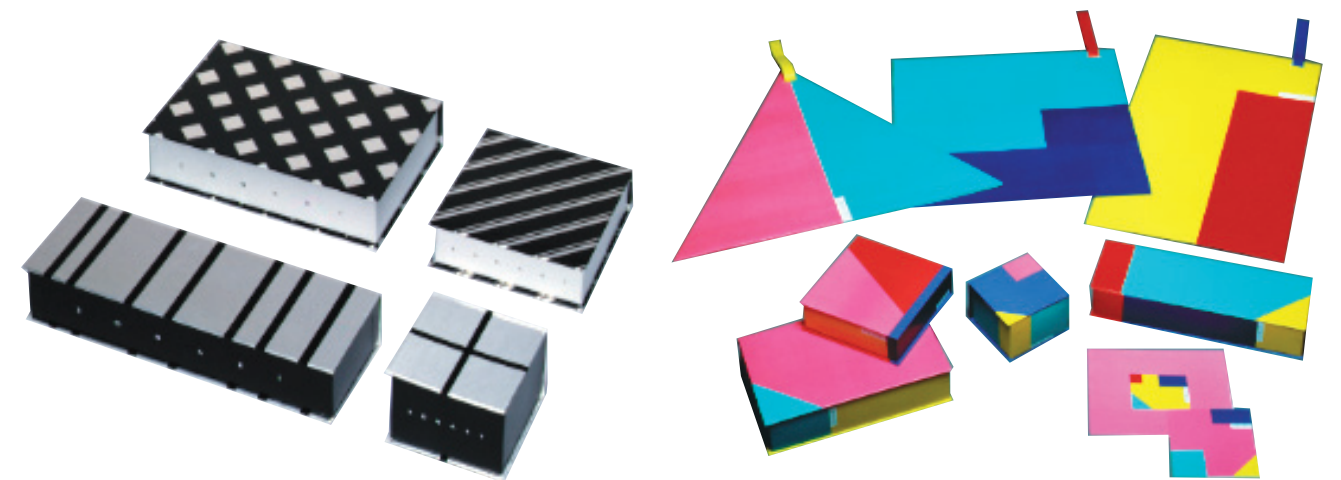
Katsu Kimura

Born in 1934 in Utsunomiya city and established Packaging Direction Co., Ltd. which hitherto existing to the date in 1960. Launched solo exhibitions to present function and perspective of packaging since 1968 and successfully built his own world of packages with bright and rhythmical designs. His sphere of activities is not limited to domestic market. Shopping bag designing for Bloomingdale's, New York is one of the examples. Is active not only in packaging design but also in broad range of fields including CI design and product development as well. Members of Tokyo Art Directors Club, Tokyo Type Directors Club, and the Japan Graphic Designers Association Inc. Awards received include Tokyo ADC Award and Members' Award, Japan Package Design Award (JPDA) for Excellence, JPDA "Person of the Year" Award, JPDA Gold Prize, and many more. Publication works are "Katsu Kimura Package Direction", "Packages of Art Deco", "BOX-ER: the Packaging of Katsu Kimura", "ALL OF SSAWS", A&D SCAN "The Works and Surroundings of Katsu Kimura", and more.

時代をパッケージした木村勝さん

工藤青石

木村勝さんを思う時、いつもその笑顔と『Katsu Kimura Package Direction』(1980年、六耀社)のBOX型のカバーに入った作品集のデザインが頭に浮かびます。ラッキーストライクを連想するコンポジション、封かん紙を模した水色の帯に「MADE IN JAPAN」と書かれています。その圧倒的なインパクトとユーモアがまさに木村勝さんそのものなのです。作品集のパッケージが代表作の一つである事がとても木村さんらしいと思うのです。同世代の多くのデザイナーの方々がそうであったように、木村さんも戦後アメリカから持ち込まれたタバコやチョコレートのデザインに大きな影響を受けたと聞きます。しかし、木村さんほどその事をダイレクトにその後の仕事につなげた方は他にはいないと思います。私がデザインを将来の仕事として意識し始めた頃は、ちょうど木村さんが「PENGUIN'S BAR」や「EKUBO」や「COBRA」を作られた時期で、パッケージデザインにスポットが強く当たりはじめた時代でした。デザインの雑誌でそれらのお仕事を見て、木村勝さんの存在を初めて知りました。その後「SSAWS(ザウス)」では人工スキー場を丸ごとパッケージデザインしてしまうという、夢のような仕事や、「ZONART(ゾナルト)」では商品自体の開発など、いわゆるパッケージデザインの枠には収まらない活動をされていました。初めてお会いした時、その温厚な印象と同時に、目の奥の深いところが鋭く光っているコントラストを覚えています。その佇まいに一線を長い間走ってこられた方の強い存在感を感じていました。21世紀に入って以降特に、市場の競争が激しくなり、パッケージデザインはその状況に直面し、デザインが単なる商売の道具になりそうなこのごろです。しかしそんな時代だからこそ、より豊かなデザインが必要だと感じています。そして木村さんが創ってこられた実験的な箱たちや、一つ一つの商品のデザインや、編纂された『日本のパッケージデザイン:ヨーロッパとの対比』(1979年、日本パッケージデザイン協会編集、六耀社)、『20世紀ボックス』(1998年、木村勝編著、六耀社)のメッセージに、現代のデザイナーが、時代のスピードに押し流されて、忘れてしまいそうになる豊かさや優しさが、たくさん込められていると感じます。改めて、ADC殿堂入りおめでとうございます。これからもパッケージデザインの可能性と楽しさをひたすら追求し続ける大先輩として、私たち後輩を厳しく、また優しく見守ってください。そして木村さんにしか生み出せない「MADE IN JAPAN」のデザインを創り続けてください。



ゾナルト アンド カンパニー
シルバーボックスシリーズ(ギフトボックス) 1987

ゾナルト アンド カンパニー
カラーコレクション(ギフトボックス) 1983